

第 7 回米子市総合計画審議会会議録（概要）

○開催日時 令和 2 年 1 月 30 日（木）午後 1 時 3 0 分～

○開催場所 米子市役所本庁舎 4 階 4 0 1 会議室

【審議事項（1）米子市まちづくりビジョン（素案）について】

■ 高野委員

22 ページ「2-3 地域福祉活動の推進」で、計画目標に「①市内の 7 つの福祉圏域を設置し」とある。数値目標として、7 箇所設置するとあるが、おそらく 7 つの福祉圏域というのは地域包括支援センターの圏域だと思う。もともと地域包括支援センターが 7 つになっているのは、包括を受けるところがなかったから、7 つの圏域が結果として定まったというのが実情。福祉圏域の設定そのものが、基本的なところをよく考えられていないのではないかと。圏域についての説明がないのが、非常に大事な問題ではないかと。

また、数値目標 7 箇所について、もともとないものが新たに 7 箇所できるときに、これは数値目標として適切なのか。「新たに 7 箇所、米子市全ての圏域で設置する」というような書き方のほうが、0 から 7 というのは非常に数値目標として違和感がある。

資料 3 について、合計特殊出生率が 1.87 程度とあるが、例えば 1.5 くらいなら 1.5 程度でもいいが、小数点 2 位まで出しているながら「程度」というのはおかしいと感じる。

□ 景山福祉保健部長

7 つの福祉圏域については当初 11 箇所中学校区で設置していたのが、支援センター 7 箇所になったという経緯はそのとおり。現在の 7 箇所の包括支援センターを中心としたものを福祉圏域とする現在のところの考えについては、地域福祉を推進するうえで、住民の方、諸団体との協議の結果、現在のところこの構想を進めていこうという状況。いろいろな「くくり」があるので、今後 7 箇所がどのようなかたちが一番良いかは、議論をしていくべきものだと思う。

また、数値目標の 0 から 7 について、個々の地域の実情をまず把握したうえで、センターを中心とした福祉サービスをどのようなかたちで展開していくかということも議論を始めていこうとしている。最初に「市内に 7 つの福祉圏域を設置し」というのが、唐突であるという指摘については、まもなく策定する地域福祉計画の、文言を照らし合わせながら、分かりやすく説明できるものがあれば加えていきたい。

■ 高野委員

おっしゃるとおりだと思うが、圏域の考え方というのを、少し基本的なところを記述する必要があると思う。

□ 八幡総合政策部長

先ほどの意見についてだが、唐突に福祉圏域と出るのが分かりにくいと思う。この後さらに見直すのが、当たり前行政が使う言葉が一般の方だと分かりにくいというご意見もあったので、この福祉圏域についても同じように福祉圏域とは何かということを補足説明として付け加えたい。

□ 長谷川総合政策課長

合計特殊出生率の数値目標については、最終的に県の数値目標を勘案して決めていく。今は 1.87 程

度と記載しているが、県の数値が示されたらそれを勘案して、いくら以上という形で設定したい。

■加藤会長

私のほうから一点、39～40ページの目標値のところでも市内企業の産学金官連携事業数、累計誘致企業数となっているが、この目標値がH14年～R6年の累計とH1～R6の累計とあるが、例えば41ページは計画期間中のR2～R6と書いてあるので、書き方の統一をしていただいたら。

□杉村経済部長

現状値はいろいろな表現の仕方があろうかと思う。表現の仕方として分かりやすく、修正していきたいと思う。

■加藤会長

もうひとつ、資料4はSDGsの対応表ということだが、「スポーツ健康まちづくり」の6-1と6-4は、17のゴールのどこにも該当していない。なんとなくすべての人がスポーツに親しんだり、介護予防やフレイル対策の推進ということになると、3の「すべての人に健康と福祉を」というところに該当するのではなか。すべての項目がひとつひとつに対応している形がとれたらと思う。

□倉本まちづくり戦略室長

市の取組を具体的に当てはまるか考えながら厳しめに評価をしている。分野として関係分野をすべて入れるということであれば、もう少し丸が増えてよいかと思うので、最終的に盛り込む段階までにもう少し整理したい。

■入江委員

資料2の38ページ、まちづくりの基本方向の表題に「中小企業振興条例による」と、急きょ追加になった感じがするが、中小企業振興条例によるというのは基本方向なのか。私はこちらの策定に携わっているが、ほかの表題と比べると変な基本方向だと見ている。中小企業振興条例は、地元企業を振興していくための方法のひとつ。それを一番上に持ってくるのはどうなのか。

□杉村経済部長

現在、中小企業振興条例の案を策定しており、これを3月議会に上程する。この条例には、具体的な地元の企業を振興するためのアクションプランを策定してくという条文が掲げられていることから、議会でこの構想計画の中にこの取組を入れるべきだというご指摘があった。検討したが、どうしても「中小企業振興条例による」という表現を出すのであれば、まちづくりの基本方向に入れて、それに基づく地元企業の振興と地域産業の活性化、この表現が合っているのではないかという協議のうえで、ここに掲げるという判断をした。ただ少し他の項目を見ると、条例をここに入れるのは、ご指摘のとおりと思う。最終的に市長と相談して決めさせていただきたい。

■山根委員

私がこれまで一番こだわったのが「新商都 米子」で、いい具合に整理されたと思う。とても分かりやすくなり、全体を統括する概念だということによかったと思う。

「中小企業振興条例による」という表現について、新しく作るので目玉というのは分かるが、福祉でも何でもみんな条例に基づいて市政をやるわけで、当たり前といえば当たり前。計画目標は条例を作ることが目標ではなく手段なので、現状と課題の中にさらりと書くことで済む。

□八幡総合政策部長

今日、答申の許諾ということになっているが、答申の際に本日のいろいろなご意見については、しっかりと受け止めさせていただきたいと考えている。「中小企業振興条例による」というところだが、そういうご意見があったということで、市長と相談させていただきたいと思う。

■古賀副会長

県の動きや国の施策とかで少し修正があるということだが、出生率に関する修正も素案を見ていると、けっこう数字が高いという印象があって、どうやってここから修正していくのか気になった。そのほか本文中にも県の方向性に沿わせて修正することがあるのか。

□八幡総合政策部長

今後、県が数値を設定していくと思う。出生率に限って言えば、県は人口置換水準 2.05 という今まで達成したことがない数値を設定すると聞いている。以前、本当にこの出生数をこの施策で実現可能かとシビアな議論をいただいた。今回のまちづくりビジョンというのは、トータルのまちづくりとして結果的に出生率とか人口が上がっていくものであり、確実に予測される人口をベースにどういうまちづくりをするかと、あえて現実的なビジョンを今回つくるべきだと、伊木市長もそういうビジョンをつくりたいということで始まったもの。ただ、今後いろいろな交付金を申請する際に、国、県と整合が求められることがあるので、その際は数値を修正する必要があるかもしれないが、今までの皆さんの議論を踏まえたうえで、つくらせていただきたいと思います。修正しろということであれば、逆になぜ、ということでせっかく議論いただいたので国に対しても、もの申していきたいと思う。

■加藤会長

審議は尽くされたということで、これをもって答申したいと思う。本日を含めて7回の審議会を開催し、審議を終えたので、これから答申書の案を配布させていただき、さらに検討をお願いしたい。

2月7日予定だが、伊木市長に答申書を手渡し、ビジョン（案）が付属資料となる。

今の答申案についてご意見はないか。

■吉岡委員

今回公募委員として一市民として参加したが、市民には、総合計画というものをしっかり読み込むということとはなかなかないので、これに携わることによって、よりまちの行政を身近に感じることができ、審議委員の方のご意見を聞くことで勉強になった。私も地域のことにとても疎く、この審議委員をするようになってから公民館に足しげく通うようになり、地域の集会に出たりなど変化があった。もっとたくさんの市民がこの場に来て、議論を交わす機会が得られることがとても大事だと思うが、米子の、特に女性の方は奥ゆかしい。審議会の女性割合というのが目標に掲げられてはいるが、やはり従来の方法ではなかなか女性は出ていきにくいと思う。各団体の方が代表に女性を積極的に選んでいくということも大事だし、1番最初の時に提案したが、やはり無作為抽出手法、住民基本台帳から無作為で抽出した住民に対して個別に招待をするという手法は、女性や若い方が参加するにはとても有効だと思う。夜の開催ということもあるかと思うが、こういうところで積極的には意見を述べないけど、実はきちんとした意見を持っていて、それを発したいと思っている人を発掘するという手法も、ぜひこれからは取り入れてほしい。

SDGsの対応について、もともとの総合計画・ビジョンで、どういうまちに住みたいか、どういうまちに住むのが

市民にとって幸せなのか、市民がどういうまちなら楽しいかという議論が根本的に欠けていると思った。そういう議論というのは恐らく専門家や有識者にはできない議論で、普通の市民でないとできない議論だと思う。その点からも普通の市民の枠をもっと広げていただきたい。

あと人口の話が出たが、人口は減る。減ることを前提としたまちづくりにおいて、いちばん大切なことは、この審議会を通して、女性と男性が力を合わせて総力戦でやらないと、人口が減る社会、持続可能でない社会なのではないかと思った。そこで、当初は言うつもりはなかったが、男女平等ということを強く訴えた。今までのような男女平等が女性運動の、例えばイデオロギー的な問題ではなく、まちを持続するという根幹に関わる総力戦という意味で、本当に女性も男性も一緒にやらないといけなのだとつくづく感じた。そういう意味において地方創生の総合戦略で、多様な人材の活躍を推進する、に男女共同参画が入っていることは、そこを多様な働き方に入れている時点で、この総合戦略とか地方創生そのものが、男性目線であると思う。そういう意味で、強くそのあたりを強調させていただいた。SDGsを積極的に取り入れていく総合計画がないか調べたが、新潟市の総合計画の実施計画は、行政の職員の部課長級の割合を上げることが明確に書かれている。素晴らしいことだと思った。米子市のような地方都市では、男女が本当に平等に働ける職場、人数のいる職場というのは、やはり市役所ではないか。多分、どんどん女性の部長も増えていると思うが、きちんと実施計画に示して市民に希望を与えることが、とても大事。それが民間に波及していくと思うので、今のような男女参画の計画が啓発活動にとどまらず、具体的な数値目標を掲げることで、若い女性が米子市にぜひ戻ってきたい、という原動力にもなると思う。この審議会としての方針とは違ってくるかもしれないが、これから行政の方が細かいところを決めていかれると思うので、私個人の意見として述べさせていただいた。

■加藤会長

今日が最後なので、皆さんから感想を聞いて答申の時に市長に話をさせていただく。

■渡部委員

私も他方から嫁いできて米子人にはなりきれないが、残念ながらこの米子という地域は女性が積極的に出る機会が少なく、こういった場に出る機会あっても、男性の方、それなりに場を踏んだ方がおられて、質問や話の仕方や議会の流れとか、一市民としては空気に圧倒されて思いを言い出せないのが現状。だが今回、流れについて拝見、拝聴させていただき、『住んで楽しいまち よなご』、この3行の中に私の思いが凝縮されて、こういうまちだったら嫁いできてよかったという思いがつくづくしている。

これからずっと市民としてお世話になるが、できれば若い方達にも、もっと米子を好きになってもらって、「住んで楽しいまち」だとか、自分の子や孫たちにも米子のまちは良いのだと伝えていっていただくことが、個人としての願い。

■山根委員

私は商工行政について意見を言わせていただいた。市民に対するメッセージをアピールするのが一番大きなビジョン、将来像。そこで私がこだわったのが、「新商都」であったが、簡潔にまとめていただき、良かったと思う。

また、ふるさと教育が非常に良いと思う。これから地域を支えていくのは、子ども達。子ども達のこの地域への愛着が、いろんな施策があるなかで、用意ドンの第一歩。ここが一番大事だと思っているので、ぜひこの

ビジョンに掲げてあるように、地域の素晴らしさを伝えていただけたらと、これまで以上に願う。

■ 藤吉委員

私は大阪と東京に住んでいたが、これからの生活や自分の仕事を考えて、去年の4月に米子に移住してきた。この審議会を通して施策やまちに対する思いが共有できて、ありがたかった。一個人として考えると、住むまちに対して、出張やリモートワークで県外の仕事もできるのでそれほどこだわりはなかったが、やはり子どもがいると生活圏がかなり限られるので、自然とまちに関心を持つ機会になるし、実際に県内の地域の企業の方たちの話を聞き、このまちに住む誇りやプライドとか、何かしら希望を感じて取り組まれている方々と出会うと、やはりそういう方たちと一緒に思いを形にしていきたいと考えるようになった。回を重ねるごとにこの審議会が、自分自身もここで何かできるかと構想したり、思いを確認したりという時間だったと感じている。

いろいろな場所で変わる必要性や変革みたいなものがテーマになってきていて、会社のなかでもそうだが、まち全体としてもそうなのかなというのが、「新商都」というビジョンだったり、まちの今後の方向性に表れていると思う。ただ、自分も含めて人は変わることに対して抵抗感があったり、どうしても痛みが伴うのでなかなか変わらないのが現状だと思う。変われるというのは新しい姿になれる希望だったりと思うので、前向きな動機づけが促されるような言葉というのを、自分自身ももっと考えて、自分の言葉でまちの今後だったり、自分が作っていききたい今後の姿を話していきたいと今、感じている。

■ 中村委員

私も夫も、こちらの出身ではなく、今で言うIターン、転勤族で来たが、こちらの仕事に就いたので米子にずっとお世話になっている。

生活していく年齢によっては、住みやすかったり住みにくかったり、考えたりすることがいろいろ違ってくる。皆さん、一般の方達の中にどこにも所属したことがなくフラフラしながら、文化的な活動だけしている人間に、為になるお話を聞かせていただいたが、やはり若い方が出て話せるような会をもっと作っていかないと。いろいろな会議で、和気あいあいとまではいかないが、少し発言できるような会議が増えているので、そのあたりをもう少し取り入れれば、若い方が入ってきて発言できて、これから長く生活していく方たちが過ごしやすいまちができていくのではないかと。他県でいいと思うことは、どんどん取り入れていけばいいのではないかと。とにかく長く住まわせていただいて、米子にいて良かったと思う時と、やっぱり嫌だったというのが入り混じって30年くらい住んでいるが、良くなることを願っている。

■ 田後委員

今まで行政と社会福祉協議会とは別々に福祉計画を作成していたが、今年度から初めて米子市と社会福祉協議会が同じ部屋で、計画を一緒になって作っていくというシステムができ、もう少ししたら答申ができる予定。

これから高齢者がどんどん増えていくので、地域社会が地域福祉を推進するのにどう対応していくかが、今の一番の課題になっている。社会福祉協議会では、在宅福祉員による地域福祉活動、民生委員と在宅福祉員の活動の連携支援を行なっている。在宅福祉員はすべて女性。民生委員も約半数が女性。地区の社会福祉協議会長も27名のうち4名が女性。福祉の世界ではどんどん女性の意見を取り入れていく体制になっている。

■ 高野委員

商都米子が少しくたびれてきたなというところで、もうちょっと頑張ろうということで「新商都 よなご」というフレーズは良いと思う。

住んで楽しいまちづくりの基本は、自分の住んでいる所を大切に思うことがまずはスタートだと思っている。地域活動が高齢化で衰退することが心配されている。現役で働いている人に積極的に地域活動に参加していただきたい。そういうネットワークをぜひ作っていただきたいと強く思う。行政にもお願いしたい。

■ 桂藤委員

審議会に参加させていただくのは2回目だが、前回よりも今回のほうが活発に意見が交わされたのでは。参加されている方の積極的な参加の仕方がすごく変わってきたと感じている。

5年間、あつという間に変わっていくのだが、地元にいると変化に気づきにくい。私はずっと40年間こちらに住んでいて、住むのに最高なまちだと思っているが、最近はこちらに住んでいる方の収入を上げていくこととか、ここにいながら充実した生活が送れるということがすごく大事なことだと思うので、今回、話ができることが嬉しかった。昔からよく言う「米子に来て何も無いでしょ」と言われるところを『住んで楽しいまち』なんだと言われるように、この計画で変わっていけばと思っている。世間の動きは早く、令和6年まではすごく長いと思うので、随時この計画をもっと上げるなり、下げるなり、変わってくると思う。目標値の設定を私たちも細かく追いかけていけたらと思うが、機会がないと追いかけていけないので、見える場所があったらいいと思う。

■ 赤澤委員

みなさんの熱い思いで、米子のまちづくりの答申ができる段階になったと思う。これを作ることが目的ではなく、進学や就職でこの地域を出ていっている方々にこのビジョンをどうにか伝えていって、このまちに帰っていただく。「こういう素晴らしいまちなんだ」ということで帰ってきたいと思うまちであってほしいと思うし、他の地域の人たちから来て、非常に活躍されている方々もたくさんおられるので、多くの方がこのビジョンを見て、移り住みたいと思っていただくと非常にいいなと思っている。だから、今後いかに外に発信していくかということが重要だと思っている。

■ 入江委員

当初、総合戦略の有識者会議ということで参加した。総合計画と総合戦略が一緒になったことで、大変な思いだった。これが総合計画を作る生みの苦しみなのかと思いながら参加させてもらった。大変、活力ある会議で、いい勉強をさせていただいた。

米子市長の思いがかなり詰まっているものだと思う。計画の推進の一助になればと思う。

■ 佐貫委員

過去の行政機関と比べると、非常に市民との距離が近づいた印象を受けた。

基本構想の中で、「所得向上のまちづくり」という大胆な言葉が出ている。私ども労働界から見れば、本当にたくましい構想なので、ぜひとも期待したい。所得向上というのは、企業の安定と世の安定。市でも支援をお願いしたい。

まちづくりの基本は、何を言っても交通基盤の整備だと思っている。道路も、交通の流れを見ながら、どこにポイントを置いて作るか。松江市もだんだん道路ができて、全然まちの車の流れが違った。どういうふうに渋滞が流れるのかを調査をしていただきたいと思う。

米子市のまちづくりのポイントは境線周辺だと思っている。唯一、都市型線というのが境線だと思うので、境線を、例えば30分程度で走らせるには何が必要かという、周辺からのまちづくりをすれば良いのではないか。

また、基本計画の中で、山陰新幹線なり中国横断新幹線について、今の社会の流れの中で触れられるのは当然だと思っているが、現実的には何十年先の話でもあるし、仮に出来たとしてもももとの線路が第3セクターになる。この山陰本線が第3セクターになったときに本当に耐えられるのか。それよりも今の伯備線あるいは山陰線を強化する、そういった文がこの中に盛り込まれると嬉しいかなという気もした。

■ 杉本委員

時間と労力をかけられているので、このビジョンをしっかり形にするというのが大前提なのだが、そのためには市民をしっかりと巻き込んでいかなければならない。私たちの団体もしっかり巻き込まれたいと思うので、どうぞ声をかけていただけたらと思う。

こうした、意見を反映させようという姿勢が、何かしらコンテンツを作ろう、ソフト面を何かしようと思う時に大切なポイントになると思うので、その姿勢は忘れずに、小さな声を拾い集められる体制も考えながら進めることで、良いまちになるのではないかと期待している。

■ 森本委員

去年4月に米子に赴任し、大変住みやすくて良いまちだと感じている。米子という地方都市だからこそというところを目指し、この米子市まちづくりビジョンを実施していただければと思う。私共も地方創生を実施しているところなので、金融を通してこのビジョン達成に向けて協力できたらと思っている。

また、私は米子高校の学校運営委員会に参加しているが、その中で学生の発表を見る機会があり、米子市の問題に対して改善策等、検討するということに取り組む授業があった。高校生も米子市のあり方とか、現状に対しての問題意識を高く持っている。かつ、米子を好きでいると実感した。こういった意見も含めて、今後このビジョンに取り組んでいただけたらと考えている。

■ 濱本オブザーバー

最後のほうで、県の総合戦略の素案との整合性の話があった。出生率の整合性について、何か言われるようなことが今後あれば、この度の議論の様子をしっかりと県庁のほうに伝えたいと思う。

■ 徳田オブザーバー

複数の周辺自治体の委員も務めているが、この会では、皆さん非常に活発に意見を発せられて、米子の市民性がよく出た審議会になった。

「新商都」という言葉を上手く盛り込まれたと思う。われわれメディアは、良い悪いは別として「何々の商都米子」というように枕詞をつけて、その都市を表現するくらいがある。この「新商都」は市長がこだわられた言葉でもあるということだが、メディアの側からみて「新商都」を、工夫して盛り込まれたのは良かったと思う。その「新商都」の中には、いろいろな思いが込められているというのも、今日改めてお伺いできたので、そういうのを今後外に向けて発信する際に、ぜひ強調して発信していただきたいと思う。

総合計画はどうしても総花的になりがちな中で、米子市らしさが落とし込んでいるのではないかとと思う。市民アンケートなどで一番要望がつかうかという部分を、きちんと計画の中に盛り込まれて、職業とともに産業の育成という観点で盛り込まれた。さらに、認知症対策も含めて、米子市が先行する「スポーツ健康」とい

う基本目標もあるから、米子市の特徴が出たプランになったのでは。これを絵に描いた餅で終わらせないように、人口減少社会、SDGs いう持続可能なところで、お金のない中でも市民との協働で「住んで楽しいまち」を実現していただきたいと思う。

■ 古賀副会長

地方創生有識者会議の座長として、4 年半ほど関わらせていただいている。この会では非常に闊達な意見をいただいております、私もいろいろな意見に触れて、非常に良い刺激を受けた。より米子に対する愛着感というのを持つようになり、今や出張の際には米子市のバッジを着けて、米子市のアピールをしている。皆さんは米子市の一員として、いろいろ議論いただいたと思う、私自身も鳥取大学付属病院の一員としての意見と合わせて、米子市民としての意見を述べてきたような気がする。こういった会を通じて、皆さんと一体感を持ち、皆さんのご意見に触れて、自分の意見をもう一度考え直したりというような機会になった。こういった会をもっと継続して行ってほしいという考えも生まれた。

このビジョンは最終的に市として発信されると思うが、実現するには市民の参加がなくてはならない。市民の一員として私もぜひ実現に向けて頑張っていきたい。よくぞこの「新商都」という名前を付けていただいた。非常にふさわしい名前だったと思うが、新しい魅力を発信して、若い人がどんどんチャレンジする、そういった市になれば、この先輝く未来が見えてくるのではないかと。私自身、米子市内で企業を立ち上げ、それから今月から新しく企業を 1 社誘致する。ほかにもここに来たいと言っている会社もあって、どんどん商都を盛り上げる一員として取り組んでまいりたい。

■ 加藤会長

この審議会の委員が皆さんで良かったと思う。副会長から、この会は一体感があり、皆さんの意見で考え方をええたりしたと発言があったが、まさに私も同感で、この審議会を通じて米子市のことを改めて学ばせていただいた。いろいろ学んだりすることで、さらにこのまちが好きだとか、このまちで何ができるのかということに思いが至るということを実感した半年間だった。皆さんのご協力に感謝を申し上げたい。副会長の言う通り、こうしてできた人のつながりが継続して行ってほしいと思う。委員の任期が 2 年間ということだから、市のほうで今後のあり方も前向きに考えていただけたら。

一通り感想をいただいて、答申の時に、皆さんからこういった意見があったということを紹介させていただこうと思っている。

今の感想の中でも、これは作るのが目的ではなく、これをいかに市民と一緒に実現していくかということが大事で、そのためにはメッセージ性や発信の仕方が大事だと言っていた。私も同感で、今後冊子に製本するとき、カラーにするなど、見せ方も当然工夫されると思う。最近、米子市と米子高専がコラボレーションして、いろいろ米子市のシティプロモーション動画を作っているのだが、何かこのまちづくりビジョンを映像で紹介するようなものを制作していただいたら、PR 性があったり、世界からもアクセスできるのかなど思ったりもしている。

ファンクラブができて、メールマガジンが発信されていると思うが、このまちづくりビジョンができたとか、まちづくりビジョンではこういったことを取り組もうとしているんだというようなことを載せて、メールマガジンを流していただいたりということも有りかと思う。それから皆さんがおっしゃっている「新商都」が非常にキーワードになっているが、「新商都」の絵のコンテストだとか、何か市内外の皆さんに「新商都」とはこんな感じなんだというコンテ

ストを、若者を対象にしてもいいし、写真・映像のコンテストでもいいし、スピンオフの企画として、これから取り組んでもらってもいいかと思う。皆さんのいろいろなご意見をいただいてできたまちづくりビジョンを、さらに発信していただきたいということで、アイデアを披露させていただいた。

ひとつ心残りとして、この会に毎回マイカーで来てしまい、1回くらいバスで来たらよかったと思っている。今後この交通基盤のまちづくりの中で私自身も、公共交通を利用したいと思っている。

□八幡総合政策部長

このまちづくりビジョンは、総合計画と総合戦略を一体的に作るということということで、趣旨としては、結局市役所のやっている仕事というのは一つで、総合計画とか総合戦略ということよりも、普段やっていることをビジョンという形でまとめるということ。赤澤委員からあった「計画を作ることが目的ではない」という言葉だが、まさにそのつもりでこのビジョンを策定している。過去には総合計画を作っても、見たことがないというくらいがあったが、これは確実に毎年見る。これに基づいて政策を立案する。実際何をするかというこの基本計画の部分については、毎年やるのがベースになっているわけだから、情勢・状況が違えば当然変えていく。そして、その目標値も変えていく。そういうことで、この度のまちづくりビジョンは、米子市始めて以来の計画であると思っている。そして、その計画を皆さんと一緒に作らせていただいたとは本当にありがたいことだった。

さらに、このまちづくりビジョンの中で思ったことは、やはりまだまだいろいろな意見を反映して、さらなる進化を進めていかないといけない。市民の皆さんの意見を反映するというのは、ある意味当たり前のこと。これをさらに色々な場面で、様々な世代の方からご意見をいただける仕組みについて、今後も考えていく必要がある。

今回計画を策定するにあたって、加藤会長、古賀副会長をはじめ、委員の皆さまにお世話になったことをあらためて感謝申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。

■加藤会長

最後になったが、皆さんに改めてお礼を述べさせていただきたい。本当にチャレンジングな取組に関わらせていただき、本当に幸せだった。委員の皆さまには忙しいところ、会に参加していただき建設的なご意見をいただき助けられた。古賀副会長はじめ委員の皆さんのご協力によって、まちづくりビジョンが形になったことに感謝したい。

きちんとみなさんに報告していなかったが、実は12月に米子高専の授業の中で、課長からまちづくりビジョンについて学生たちに少し説明をしていただき、それをもとにディスカッションをする授業をさせてもらった。ふるさと教育になると思うが、そういったところでもご協力いただいた。

以上でこの審議会を閉じさせていただき、皆さんの思いを伊木市長に答申したいと思っている。ありがとうございました。